廃棄物の適正な処理の確保に関する条例 質疑応答集（改定版） 新旧対照表

該当頁	変更箇所	改正案	現 行
6	II-3 木くずチップの使用基準 答 4	<p>問 1 <u>建築物の新築、改築又は除去（解体）に伴い生じた木くずから作った木くずチップを、原則使用禁止としたのはなぜか。</u></p> <p>答 1 <u>建築物の新築、改築又は除去（解体）に伴い生じた木くず（以下「解体等木くず」という。）については、条例制定時に CCA 処理木材を含む木くずの使用等、生活環境の保全上支障のある利用がみられたため、こうした木くずチップの使用を原則禁止とし、「ただし、知事が生活環境の保全上の支障がないと特に認めた木くずチップの使用にあっては、この限りでない。」としたものである。</u></p> <p><u>なお、「知事が生活環境の保全上の支障がないと特に認めた木くずチップの使用」の例として、逐条解説に掲げた「排ガス処理装置にバグフィルターを備えた木質ボイラーでの使用」については、CCA 処理木材やクレオソート油処理木材であっても使用できる。</u></p> <p><u>一方、逐条解説にある「使用する側における利用実態を知事が確認し認めた使用」については、どのような解体等木くずをどのように利用したかの全般について確認して判断することになるが、少なくとも建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（平成 12 年法律第 104 号）の趣旨に沿って排出から使用までの全ての工程において CCA 処理木材等の混入のおそれがないよう適切に再資源化されたものの使用については、条例施行規則第 6 条第 2 号又は第 3 号に規定する木くずチップの使用を含め、一律に禁ずる趣旨ではない。</u></p>	<p>問 1 <u>建築物の解体又は除去に伴い生じた木くずから作った木くずチップを、原則使用禁止としたのはなぜか。</u></p> <p>答 1 <u>CCA 処理木材は、有害物質（六価クロムやヒ素）が含まれるため、基本的にリサイクルに不向きなものであるとして、適正に焼却又は埋め立てることが必要とされている。このような CCA 処理木材や発ガン性物質が含まれるクレオソート油処理木材が木くずチップの原料となった木くずに混入しているかどうかの確認は、当該木くずのチップ化後においては極めて困難である。杜撰な解体工事が行われ、その結果として建築物の解体に伴い生じた木くず（以下「解体木くず」という。）にこれらの防腐処理木材が混入する可能性が高いことから、原則として使用禁止とした。</u></p> <p><u>ただし、解体工事木くずも基本的には建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（平成 12 年法律第 104 号）の趣旨に添って適切に再資源化されるべきものであり、CCA 処理木材等がきちんと分別・除外されている場合に、解体木くずから作った木くずチップの使用を禁ずる趣旨ではない。</u></p>

該当頁	変更箇所	改正案	現 行
18	IV-1-2 廃棄物の処理に関する記録・閲覧について 答 8	<p>問 4 記録のコピーや撮影は許されるか。記録内容を印刷した書面や記録の電子コピーを交付したり、記録自体を貸し出しするよう求めることはできるか。</p> <p>答 4 事業者の任意で許容することは差し支えない。 ただし、記録自体の貸し出しは、他の閲覧希望者が当該記録を閲覧できなくなるため、条例の趣旨に照らして認められない。</p> <p><u>なお、廃棄物処理施設である焼却施設や最終処分場については、法で記録の閲覧が義務付けられており、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律等の一部改正について」（平成 10 年 5 月 7 日付け衛環第 37 号）において、「公衆の縦覧に供されている申請書等の複写や写真撮影については、縦覧者が持参した携帯複写機やカメラを使用する場合や庁舎内の有料複写サービスを活用する場合等であれば認められること。」とされていることから、これらの施設に係る記録の閲覧については、当該通知に従い対応されたい。</u></p>	<p>問 4 記録のコピーや撮影は許されるか。記録内容を印刷した書面や記録の電子コピーを交付したり、記録自体を貸し出しするよう求めることはできるか。</p> <p>答 4 事業者の任意で許容することは差し支えない。 ただし、記録自体の貸し出しは、他の閲覧希望者が当該記録を閲覧できなくなるため、条例の趣旨に照らして認められない。</p>